

猿ヶ馬場山 & 野伏ヶ岳

山行日：3月18日(月) ~19日(火)【前夜発】

コース

1日 松戸 22:00 = 中央自動車道 = 長野自動車道 = 国道 158 = 東海北陸自動車道 = 白川郷 I C =
= 白川郷 5:30 - であい橋登山口 6:00 - 帰雲山 11:30 - 猿ヶ馬場山 13:30/13:45 -
- 帰雲山 14:15 - であい橋登山口 16:30 = 白川郷民宿 (白川郷の湯) 16:45

2日 白川郷民宿 6:00 = 白山中居神社 7:30 - 登山口 - 野伏ヶ岳 12:00/12:30 - 登山口 15:00 -
- 白山中居神社 15:30 = 東海北陸自動車道 = 中央自動車道 = 松戸 22:00

おや、来月は土日で仕事が入っている…振替休日が月曜と火曜かあ〜。あれあれ、ドンピシャの山行があるぞ…早速参加申込。

しかし、それは KK コンビのディープな山行でした…早春の残雪期のみ登れる山です。早速、調べてみると猿ヶ馬場山などはマイナーすぎてヤママップで検索しても、地図をみても見つからないありさまです。徐々に大変な山行に申し込んでしまったのでは？と心がざわつきます。

後で聞けば、WHさんなどは白川郷の名前にひかれて申し込んだとのこと、この時点でこだわりの KK コンビと WH・Y コンビでは心構えに雲泥の差があります。山行計画をよく見れば、夜なべで運転して 8 時間越えの山行計画、K (L) に早く出て現地では仮眠を進言すると日曜日に昼寝をするか車の中で寝てかまわないからとの返事…土日が仕事だからの振休、昼寝は無理でしょ…覚悟を決めて当日を迎えました。



片道 400 km を超えるロングドライブ、途中の安房峠付近は降雪のため道路は真っ白です。

緊張のドライブの末に白川郷へ到着、明るくなるのを待って出発です。出会い橋を渡り白川郷の合掌造り集落を通り、雰囲気は最高です。『戻ったら合掌造りの見学に繰り出そう』などと会話も弾みます。入山者は我々の他は 1 組のみで、ほぼ山を独占です。天気も良く先行者もなく気持ちの良い新雪を踏んで進んでゆきます。

しかし、やがて深山に踏み込んでゆくと、先行者が無いと言う事の恐ろしさを嫌と言うほど味わうことになります。

そうなんです…地獄のラッセルの始まりです。

雪山訓練で聞いてはいたが『キツイの一言』隊列の先頭で頑張っても 10 分もとたない…体力の無さが露呈します。駐車場を 6 時 00 分に出発して早や 5 時間 20 分、ようやく帰雲山に到着、そこから大きく左に舵をきり猿ヶ馬場山を目指します。しかし眼上に聳え立つ、その山 (1,875m) はさらに一尾根越えたところにあり、この時点で気が遠くなったのは自分だけではないと思います。気をとりなおして進むと 2 時間、ついに猿ヶ馬場山に到着！！思い思いに北アルプス、御岳山、中央アルプス、白山連峰の山並みを堪能しました。

下山の事を考え滞在 15 分で出発、下山時刻が心配されたが往路の踏み跡をたどった下山は早く、3 時間弱で駐車場に到着。活動距離 16.5 km、活動時間 10 時間 32 分の山行を終えました。

その後、K (L) のはからいで大変素敵な白川郷内の民宿（白川郷の湯）へ、温泉よし、食事もおしゃれな食事をいただき、皆さん大満足のお宿でした。ただ、その夜に外出した者は誰も居なかった事は言うまでもありません・・・ おつとWEさんのふき味噌が良かったです。



さて、翌日を迎え、天気は曇天ですが白川郷の朝のすがすがしい澄んだ空気の中を出発、車で約 1 時間 20 分ほど移動し、山行計画のタイトルでもある『野伏ヶ岳』へ向かいます。

今日の山も山道の無い残雪期限定の登山です。しかし前日と違い人気があり、すでに入山者が多数あるようです。登り始めは蛇行する林道をショートカットしながら進みます。やがて以前は和田山牧場だった平坦な場所出ました。天気がよければ良い眺望なんだろうが今日はいまいちで、K (L) の山並み解説を聞いて想像するしかありません・・・その後、尾根に出るために踏み後の無い急登へ挑戦！ここでK (L) からラッセル先頭命令が・・・

雪が深く踏み抜くと腰の辺りまで沈み込みます。10 分ほどで見かねたWHさんが交代し何とか尾根へ、ここからは踏み跡があるので、楽勝かと思いきやここからが地獄の急登・・・。心得違いのWH・Yコンビは前半のラッセルが祟ってバテバテ状態、そこにダメ押しK (S L) の偽ピーク情報の連発をあげながら漸く山頂へ。残念ながら霧のため眺望は望めませんでしたが、振り返ると『これを上ってきたのか』と感心する急斜面が・・・頑張りました。

帰りは快速で下山し駐車場へ。今回の2日間の山行は300名山に挑戦中のK (S L)、その声にこたえて計画してくれたK (L)、相変わらず強脚のWEさん、参加の動機は兎に角として明るく健脚なWHさん、皆様のおかげで滅多に経験できない山に登らせていただきました。

ありがとうございました。

山崎 (記)